

平成27年度宮城県芸術選奨受賞者一覧表

(別紙)

平成28年7月8日  
宮城県消費生活・文化課

【芸術選奨】

受賞者	受賞理由(概要)	主な作品
<p>市川 信昭(75歳) 美術(日本画)</p> 	<p>昭和16年生まれ 長年にわたり日本画を制作し、東日本大震災で私設展示館と作品のほとんどが流出したが、被災現場を巡り写生を続け日展・日春展に入選を続けている。「被災当時の空気感など、絵でしか伝えられないものを表現したい」という思いが作品へと昇華されている。平成27年度は第50回日春展や改組新第2回日展入選、個展「あの日の記憶」の開催などの功績が評価された。 その実直な制作態度、力強い作品で今後も本県の日本画界を支えていく作家の1人として期待される。</p>	 <p>「記録・わたしのまち」</p>
<p>浅井 裕子(60歳) 美術(工芸)</p> 	<p>昭和30年生まれ 学生時代より陶芸に携わり、日本新工芸展はじめ多くの工芸展などで入賞・入選を重ねている。現代工芸の作品発表の場である日展で長く活躍しており、また、本県工芸界においても推進役として尽力している。常に作品研究に励み、展覧会に臨むファイトを持ち、積極的に作品を制作・出品している。 平成27年度は4度目となる改組新第2回日展入選や、日本新工芸展への出品などの活躍が評価された。 本県工芸界の牽引役として、今後の活躍が期待される。</p>	 <p>「白の記憶 流れる」</p>
<p>小岩 勉(54歳) 美術(写真)</p> 	<p>昭和37年生まれ 身近なテーマの、記録と表現の間、もしくは両義的な意味を持つ写真作品を数多く発表してきた。特に、約20年前に制作された写真集「女川海物語」が、震災後に再評価されている。 写真作品制作、ワークショップ、展覧会企画・運営、講演会などを通して、県内の写真文化の領域を「撮る事」から「観る事」や「語る事」へと拡大・向上させてきた功績が高く評価されている。また、定期的な写真発表を行う事による、無理のない、開かれた後進の育成を継続している。 平成27年度は国内外での個展開催やビデオ作品「伝言料理」などの功績が評価された。 社会の変化にとらわれることなく、宮城県や東北でしか表現できないテーマや作品作り、若い世代を中心とした育成活動などが期待される。</p>	 <p>「FLORA#05」より</p>
<p>玉田 尊英(69歳) 文芸</p> 	<p>昭和22年生まれ 詩人として、生の根源にかかわるテーマを静謐な筆致で発表し続け、県内外から高い評価を得ている。また、「東日本大震災詩歌集 悲しみの海」では、岩手・宮城・福島などの歌人・詩人の作品を集めて編纂し、この分野でのことばのありようを示した。 平成27年度は詩集「ゲノムの森」が評価された。これは、逝った肉親や友人、大震災による死者たちへの思いを「現代詩人たちがすでに失った抒情の凜然とした北方の詩精神(原田勇男評)」で、あくまでも内側に深く静かに鎮もる表現を保ち、読む者の心を蘇生の道に導いていると高く評価されている。 その希に見る静謐な詩体がさらに深められ、本県のみならず、全国的にも注目を集める作品・詩集が創造されることが期待される。</p>	 <p>「ゲノムの森」</p>

年齢は平成28年8月18日授賞式当日の年齢です。

平成27年度宮城県芸術選奨受賞者一覧表

(別紙)

【芸術選奨新人賞】

受賞者	受賞理由(概要)	主な作品
<p>松岡 圭介(35歳) 美術(彫刻)</p> 	<p>昭和55年生まれ 大学・大学院で彫刻を学び、多種多様な素材を探究。現在の作品にも至るテーマ「人間とは何か」は「彫刻の皮膚」の探究に及び、「人間」の多面性の表現は多岐にわたる素材・形態となり、その発想力と独特な手法が評価されている。 数多くの個展・グループ展に出品し、精力的に制作を重ね数々の賞を受ける。平成25年～26年は文化庁新進芸術家海外研修制度によりアメリカに滞在し、その後の制作に多大な影響を見せた。 平成27年度は、リアス・アーク美術館で行われた「N,E.blood21松岡圭介展」での作品発表など、今までに制作してきた幅広い表現の作品が展示され、今後の意欲的活動と更なる飛躍を感じさせる展開が評価された。 今後も意欲的な探究心で、幅広い作品内容の領域を確立し、世界の美術界に日本の可能性を発信して行くことが期待される。</p>	 <p>「a tree man」 写真提供:アートシード</p>
<p>市岡 泰(46歳) 美術(工芸)</p> 	<p>昭和45年生まれ 大学・大学院で陶芸を学び、修了後は金沢卯辰山工芸工房などで研さんを積む。学生時代から陶芸の地方展、中央展において入選・入賞を重ねてきた。高度な技術・技法による作品制作もさることながら、創造性・独創性を活かす思考が、多くの人に感動を与えている。また、グループ展・コラボ展・個展などを多数開催し、作家同士の感性を磨くと共に、地域と関わることで工芸の魅力を伝え、その理解を深めるため幅広く活躍している。 平成27年度は日本陶芸展準大賞をはじめとする公募展での入賞や、個展の開催などが評価された。 今後も本県における、工芸分野の若年層のリーダー的存在として、新しい意匠を見据えた作品発表などが期待される。</p>	 <p>「Bowl」</p>
<p>櫻井 希(28歳) 音楽</p> 	<p>昭和63年生まれ 地道な演奏活動を続けながら、多数のコンクール等で実力を認められ将来を期待されている。震災直後から現在まで、県内各地において復興コンサートに積極的に参加し、被災者支援に大きく貢献してきた。 平成27年度は、多くの復興支援コンサートや、20代という若さでリサイタルを開催し、多様性に満ちたフルートの魅力を質の高い演奏で紹介したことなどが評価された。 今後も質の高い特色あるリサイタルの開催をはじめ、音楽の力で被災者を勇気付ける復興コンサートの中心的役割を担い、県内外での幅広い活躍が期待される。</p>	 <p>「櫻井希フルートリサイタル」</p>
<p>館林 敦士 演劇</p> 	<p>俳優・ナレーター・音声学講師として、本県にとどまらず全国的に活動している。特に代表を務めるIMS磯貝メソッド仙台塾は継続して人材を輩出している。 演劇等の専門学校講師として後進の指導を行いながら、俳優として質の高い的確な演技を見せていることが評価されている。 平成27年度はIMS磯貝メソッド仙台塾での公演や、リーディング公演の企画・演出・出演などが高く評価された。 今後も、音声学講師として演劇の身体的な側面から後進の指導に尽力することや、俳優としてより多くの舞台での活躍が期待される。</p>	 <p>「SAMBO」(出演)</p>
<p>高橋 由紀子(51歳) 舞踊</p> 	<p>昭和39年生まれ 長年にわたり舞踊家として活躍してきており、近年は振付・指導者として、数々の優秀作品を振り付け、コンクール等で上位入賞を果たしている。 平成27年度はスタジオ公演「A TOWER」の振付により、「震災で崩れてしまった街や心は時間が経っても戻らない、悲しみや辛さを振り払い前に進んでいこう」という時代を描写した作品を発表。観客に勇気を与えた。また、「あきた全国舞踊祭」群舞部門最優秀群舞賞の指導が評価に繋がった。 今後も、舞踊家、振付師として創造の意欲を持って作品に取り組み、モダンダンスを楽しむやすい文化として宮城の地にアピールし、本県を代表するスタジオパフォーマーとしても活躍していくことが期待される。</p>	 <p>「A TOWER」(振付)</p>
<p>合同会社 仙台セントラル劇場 メディア芸術</p> 	<p>平成21年設立 経営困難により閉館が決定した劇場を、「街なかの映画館をなくしてはならない」との思いから仙台市民有志が経営に乗り出し、常設館の看板を下ろすことなく唯一の仙台資本の映画館として、昭和54年より経営を続けている。メジャー作品に隠れた様々なジャンルの秀作・奇作を集め、映画の持つ奥深さを楽しめるラインナップを上映している。その映画芸術への高い意識や努力が評価された。 平成27年度はDVDや映画館では見ることのできない映画の上映や、お笑いライブ、落語、コンサート、講演会など文化的イベントに劇場を貸し出し、文化芸術の発信拠点として活動してきたことが評価された。 運営スタッフが有する豊富な知識により、県内では鑑賞が難しくなっている文化的・芸術的な価値の高い旧作映画を特集するなど、宮城県の映画文化を支えるとともに、映画以外の様々な文化芸術の発信基地として、更に発展していくことが期待される。</p>	 <p>文化イベント等への会場提供</p>

年齢は平成28年8月18日授賞式当日の年齢です。